

WIRELESS TUNER TDW-120

取扱説明書

Owner's manual

Manuel d'utilisation

Bedienungsanleitung

Manual de usuario



YAMAHA

Ⓝ ⓔ ⓕ ⓖ Ⓢ ②


安全へのこころがけ


火災・感電、人身傷害の危険を防止するには


～以下の指示を必ず守ってください～

絵表示について

この「安全へのこころがけ」は製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を使って説明しています。絵表示の意味をよく理解してから、本文をお読みください。

 注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。


 行為の強制を告げるものです。


 禁止の行為を告げるものです。


警告


この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡又は重傷を負う危険の恐れがある内容を示しています。

この機器を使用する前に、以下の指示と取扱説明書をよく読んでください。

 この機器を分解したり、改造したりしないでください。火災、感電の原因となります。


 修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。


 ベースメーカーや除細動器を使用している方は、安全のために本機のご使用は避けてください。

 次のような場所での使用や保存はしないでください。火災、感電の原因となります。

- ・ 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
- ・ 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- ・ ほこりの多い場所
- ・ 振動の多い場所

※特に自動車内は直射日光などにより非常に高温となります。この機器を車内に放置しないでください。


 この機器に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水やジュースなど）を絶対にいれないでください。火災、感電の原因となります。


 ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。


また、過度に積み重ねての使用はしないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。

注意


この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、財産が損害を受ける危険の恐れがある内容を示しています。

 この機器は正常な通気が妨げられることのない所に設定して、使用してください。










 産業用機器、科学用機器などの電気機器に障害を与えないために、これらからできるだけ離してご使用ください。

 本体を、故意に投げたり落としたりしないでください。本体の故障だけでなく、思わぬけがの原因となることがあります。

 医療機関の屋内など医療機器の近くで使用しないでください。

 ベンジン、シンナー合成洗剤等で外装を拭かないでください。

■電池使用上の注意

-  電池を入れるときは極性表示プラス(+)とマイナス(-)の向きに注意し表示どおりに入れてください。電池のプラス(+) マイナス(-)を逆に入れると電池の破裂、液もれ、発熱により、火災、けがや周辺を汚損する原因となることがあります。
-  使いきった電池は、すぐに機器から取り出してください。電池が消耗し電池の破裂、液もれ、発熱により火災、けがや周辺を汚損する原因となることがあります。
-  電池内部からもれ出た液(電解液)は直接触れないでください。
 - (1) 電池内部からもれ出た液が目に入ったときは失明など障害の恐れがありますので、こすらずに多量のきれいな水で十分に洗った後、すぐに医師の治療を受けてください。
 - (2) 電池内部からもれ出た液が皮膚や衣服に付着した場合には、化学やけどなど皮膚に障害を起こす恐れがありますので、すぐに多量のきれいな水で洗い流してください。
 - (3) 電池内部からもれ出た液をなめた場合には、すぐにうがいをして医師に相談してください。
-  電池は幼児の手の届かない場所に保管してください。幼児が飲み込む危険があります。飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。
-  電池を分解しないでください。電池を分解すると、手や指を傷つけたり電池内部の電解液が飛び散り衣服を損傷したり、やけどなどのけがの原因となります。
-  電池を加熱、火の中に入れるなどしないでください。過度の加熱や火の中に入れると電池の破裂、液もれ、などにより、けがの原因となります。
-  指定外の電池を使用しないでください。電池の破裂、液もれ、発熱により、火災、けがや周辺を汚損する原因となることがあります。
-  電池の廃棄については自治体の条例又はとりきめなどに従って廃棄してください。
-  種類の異なる電池や新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液流れ、発熱により火災やけがや周辺を汚損する事があります。

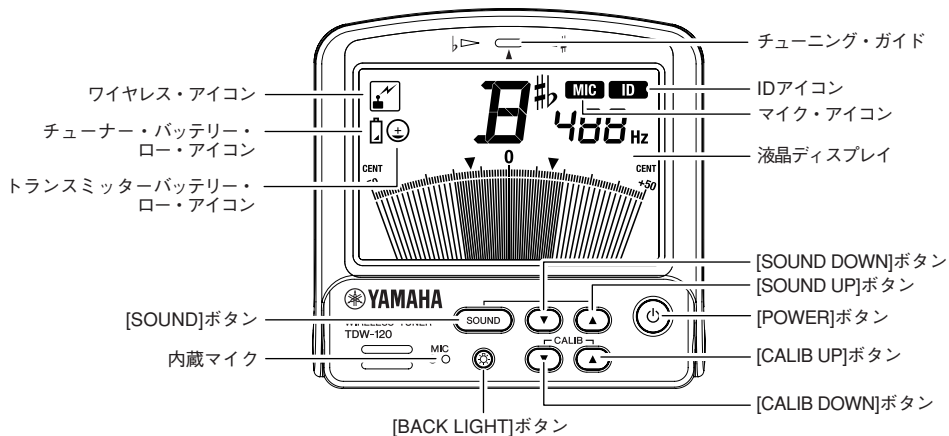
この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)、および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)、並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局、並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して、有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、弊社にご連絡頂き、混信回避のための処置など(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。
- 3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、ヤマハミュージックトレーディング株式会社にお問い合わせください。

2.4 XX 4

このたびはヤマハ・ワイヤレス・チューナー **TDW-120** をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。
TDW-120 を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。
また、取扱説明書は大切に保管してください。

各部の名称



チューナー



トランスミッター

電池の入れ方

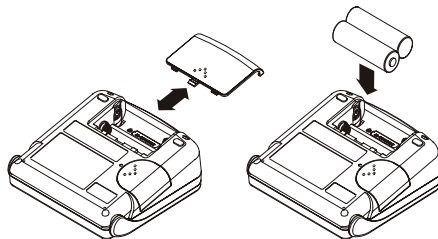
▶ チューナー、またはトランスミッターの電池を入れるときや交換するときは、それぞれの電源をオフにして行ってください。付属の電池は機能チェック用ですので、寿命が短い場合があります。

チューナー、またはトランスミッターの電池が消耗してくると、液晶ディスプレイにチューナー・バッテリー・ロー・アイコンが表示されます。しばらくの間は動作しますが、チューニングが正確にできなくなります。速やかに新しい電池と交換してください。

チューナーの場合

1. チューナー本体背面にある電池カバーを、親指の腹で軽く押さえながらスライドさせて取り外します。

2. 電池の極性に注意して、電池を取り付けます。
(アルカリ単3形乾電池推奨)



3. 電池カバーをチューナー本体に取り付けます。
▶ アルカリ電池は充電しないでください。

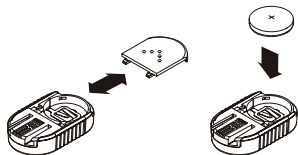
トランスミッターの場合

使用できるリチウム電池

パナソニック社製 CR2032電池

1. トランスミッター本体に取り付けてあるクリップを外してから、本体背面にある電池カバーを、親指の腹で軽く押さえながらスライドさせて取り外します。

2. 電池の極性に注意して、電池を取り付けます。



3. 電池カバーをトランスミッター本体に取り付けます。

トランスミッターへの付属クリップの取付け/取外し

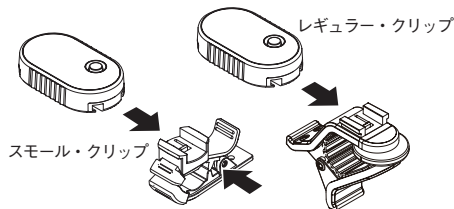
トランスミッターのクリップ取付溝にクリップをスライドさせて、奥まで確実に差し込んでください。

外すときは、トランスミッター本体を押さえながら、クリップの左右を持って、スライドさせるようにして取り外します。

▲ クリップを取り付けるときは、トランスミッターの端子部分に直接触らないよう注意してください。

▲ クリップの挟む部分を持って引っぱらないでください。クリップを破損する場合があります。

▲ クリップを取り付けるときは、ロックする位置まで押し込み、外れないことを確認してください。



楽器へのトランスミッターの取付け

TDW-120は、木管楽器、金管楽器、弦楽器などにトランスミッターを取り付け、楽器の振動を感知してチューニングを行います。ただし、トランスミッターの取り付け位置によっては、振動が伝わりにくいことがあります。このようなときは振動の伝わりやすい位置に取り付け位置を変えてください。

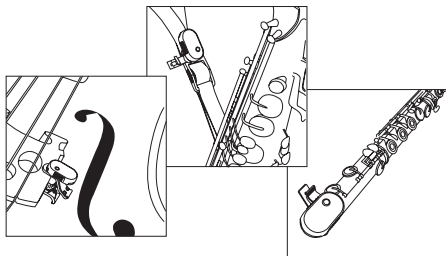
サクソフォンなどの場合、楽器にトランスミッターを直接取り付けなくても、振動の伝わるストラップなどに取付けてチューニングすることも可能です。

取り付け位置の例を参考にして、トランスミッターを適切な位置に取り付けてください。

クリップはスモールタイプとレギュラータイプの2種類が付属されています。取り付ける場所によってクリップを選択してください。

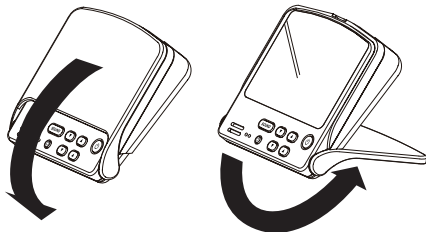
取り付け位置の例を参考にして、トランスミッターを適切な位置に取り付けてください。

取り付け位置の例



- ▲ 楽器にクリップを取り付けたり、取り外したりする場合は、ていねいに行ってください。また、長時間取り付けたままにすると、取り付け跡が残る場合があります。
- ▲ トランスミッター本体、またはクリップに過度な力をかけると破損する恐れがあります。

チューナーのスタンドの使い方



トランスミッターを交換した場合 (ID設定)

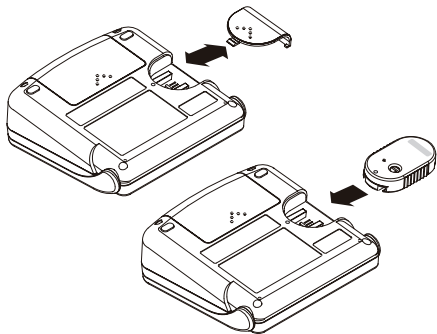
IDとは、ワイヤレス通信をする際、混信を防ぐためにチューナーとトランスミッターで共通に持っているデータです。

工場出荷時のときは、同梱されているチューナーとトランスミッターはID設定されています。

同梱以外のトランスミッターを使用する場合は、ID設定を行う必要があります。

1. チューナー背面にあるカバーを、親指の腹で軽く押さえながらスライドさせて取り外します。

2. トランスミッターをチューナーのコネクタにスライドさせながらセットします。
3. トランスミッターとチューナーの電源を入れます。



note 電源を入れた状態でコネクタにセットすることも可能です。

トランスミッターからチューナーにIDを送信して設定が完了すると、液晶ディスプレイにIDアイコンが点灯します。

4. ID設定が完了したら、トランスミッターをチューナーから取り外します。

液晶ディスプレイのIDマークが消灯します。

⚠ TDW-120を複数同時に同じ場所で使われた場合、楽器が発音していてもチューニング・メーターが動かなかつたり、異なる音名が表示される場合があります。この場合は、ID設定をやり直すことで、正常な動作に戻ることがあります。

⚠ トランスミッターは、電源オンのまま音の入力が20分間ない場合、あるいはチューナーとの通信が2分間できなかった場合、電源が自動的にオフになります。

電源の入れ方

1. チューナー、トランスミッターそれぞれの[POWER]ボタンを押します。押すたびにオン、オフを繰り返します。

チューナーは、電源オンのまま音の入力が約20分間ない場合、電源が自動的にオフになります。

バックライト

1. [BACK LIGHT]ボタンを押します。液晶ディスプレイのバックライトが点灯します。

[BACK LIGHT]ボタンを押すたびに、点灯→消灯
点灯...と切り替わります。

ワイヤレス・チューニング

チューナーとトランスミッターの電源がオンになって通信が可能になると、チューナーの内蔵マイクがオフになり、ワイヤレスでのチューニングが可能になります。このとき、液晶ディスプレイにワイヤレス・アイコンが表示されます。

内蔵マイクによるチューニング

チューナーのみ電源をオンにすると、チューナー本体の内蔵マイクによってチューニングすることができます。このとき、液晶ディスプレイにMICアイコンが表示されます。

⚠ 一旦、ワイヤレスでのチューニングが可能になったときに、トランスミッターの電源をオフにしたり、トランスミッターのバッテリーが切れたり、トランスミッターを送信範囲外に移動するなどして、チューナーが電波を受信できなくても、ワイヤレス・チューニングの状態を保ちます。このとき、マイクによるチューニングにするには、チューナー、トランスミッターの両方の電源をオフにして、チューナーのみ電源を入れ直してください。

メーター・モード

トランスミッター、またはチューナーの内蔵マイクを使用して、メーターを見ながらチューニングするモードです。メーター・モードには、ワイヤレス・チューニングとチューナー本体の内蔵マイクによるチューニングがあります。

1. [CALIB UP]ボタン、または[CALIB DOWN]ボタンを押して、合わせたいキャリブレーション(基準ピッチ)を選びます。

410Hz~480Hzの範囲を1Hz単位で変更できます。

2. 楽器を単音で鳴らします。

認識した音に一番近い音名が表示されます。合わせたい音名が表示されるように、楽器をおおまかにチューニングしてください。

3. 楽器を単音で鳴らして、チューニング・ガイド(メーターの中央)が点灯するようにチューニングします。

⚠ チューナーの内蔵マイクを使用してのチューニング時は、関係のない音がマイクに入らないようにしてください。

⚠ 測定範囲内の音程でも、倍音を多く含んだ楽器音や減衰の早い楽器音については、測定できない場合があります(例:ピアノの低音部、高音部等)。

note ある音に対して、純正の長3度上、または純正の短3度上にチューニングするには、メーターをそれぞれ純正長/短3度マークに合わせます。例えば、A (0 CENT)の音に対して、純正の長3度上の音にするには、音名表示をC#にして、メーターを左側の▼(-13.7CENT)に合わせます。また、A (0 CENT)の音に対して、純正の短3度上の音にするには、音名表示をCにして、メーターを右側の▼(+15.6CENT)に合わせます。

サウンドアウト・モード

チューナーのスピーカーから出力される基準発振音に合わせてチューニングするモードです。

1. [SOUND] ボタンを押してサウンドアウト・モードに入ります。
2. [SOUND UP] ボタン、または[SOUND DOWN] ボタンを押して、合わせたい音名を選びます。

C4(261.63Hz)~C5(523.25Hz)の範囲で変更できます。

12NOTE: C4 → C#4 → D4 → D#4 → E4 → F4 → F#4 → G4 → G#4 → A4 → A#4 → B4 → C5

3. チューナーが出力する基準発振音に合わせて、楽器をチューニングします。
4. サウンドアウト・モードを終了するときは、[SOUND] ボタンを押します。

仕様

使用温度条件:	0 ~ +40°C (結露させないこと)	
音律:	12平均律	
測定範囲:	A0 (27.50Hz) ~ C8 (4186.01Hz)	
基準発振音:	C4 (261.63Hz) ~ C5 (523.25Hz)、1オクターブ	
チューニング・モード:	メーター・モード (AUTO) サウンドアウト・モード (MANUAL)	
キャリブレーション範囲:	A4=410~480Hz (1Hz単位)	
測定精度:	±1セント以内	
サウンド精度:	±1.5セント以内	
無線:	2.4GHz帯	
スピーカー:	ダイナミックス・スピーカー (φ23mm)	
電源:	チューナー	単3形乾電池×2本 3V (アルカリ乾電池推奨)
	トランスミッター	パナソニック社製 CR2032電池
外形寸法 (W × D × H):	チューナー	100 × 99 × 34mm
	トランスミッター	27 × 45 × 10mm
	レギュラー・クリップ	56 × 22 × 47mm
	スモール・クリップ	44 × 17 × 24mm
質量:	チューナー	204g (電池含む)
	トランスミッター	11g (電池含む)
	レギュラー・クリップ	11g
	スモール・クリップ	5g
電池寿命:	チューナー	約45時間 (バックライト点灯/ワイヤレス・チューニング時)
	トランスミッター	約25時間 (A4入力連続動作時)

付属品: 取扱説明書、チューナー動作確認用単3形乾電池×2本(3V)、トランスミッター動作確認用CR2032型リチウム電池(3V)×1個、楽器取り付け用レギュラー・クリップ、スモール・クリップ

* 仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合があります。

Precautions

Location

Using the unit in the following locations can result in a malfunction.

- In direct sunlight
- Locations of extreme temperature or humidity
- Excessively dusty or dirty locations
- Locations of excessive vibration
- Close to magnetic fields

Power supply

Be sure to turn the power switch to OFF when the unit is not in use. Remove the battery in order to prevent it from leaking when the unit is not in use for extended periods.

Interference with other electrical devices

Radios and televisions placed nearby may experience reception interference. Operate this unit at a suitable distance from radios and televisions.

Handling

To avoid breakage, do not apply excessive force to the switches or controls.

Care

If the exterior becomes dirty, wipe it with a clean, dry cloth. Do not use liquid cleaners such as benzene or thinner, or cleaning compounds or flammable polishes.

Keep this manual

After reading this manual, please keep it for later reference.

Keeping foreign matter out of your equipment

Never set any container with liquid in it near this equipment. If liquid gets into the equipment, it could cause a breakdown, fire, or electrical shock. Be careful not to let metal objects get into the equipment.

CAUTION

Risk of Explosion if Battery is replaced by an incorrect type. Dispose of used batteries according to the instructions.

CALIFORNIA USA ONLY

This Perchlorate warning applies only to primary CR (Manganese Dioxide) Lithium coin cells sold or distributed ONLY in California USA.

"Perchlorate Material—special handling may apply,
See www.dtsc.ca.gov/hazardouswaste/perchlorate."

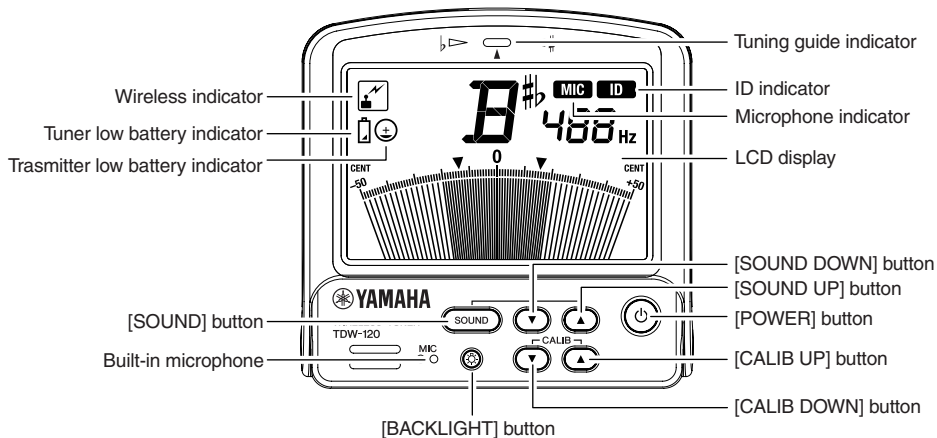
Notice regarding disposal (EU only)



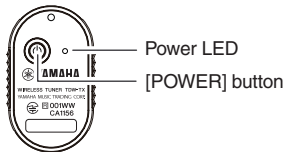
When this "crossed-out wheeled bin" symbol is displayed on the product, owner's manual, battery, or battery package, it signifies that when you wish to dispose of this product, manual, package or battery you must do so in an approved manner. Do not discard this product, manual, package or battery along with ordinary household waste. Disposing in the correct manner will prevent harm to human health and potential damage to the environment. Since the correct method of disposal will depend on the applicable laws and regulations in your locality, please contact your local administrative body for details. If the battery contains heavy metals in excess of the regulated amount, a chemical symbol is displayed below the "crossed-out wheeled bin" symbol on the battery or battery package.

Thank you for purchasing the Yamaha TDW-120 Wireless Tuner. To help you get the most out of your new tuner, please read this manual carefully.

Part names



Tuner



Transmitter

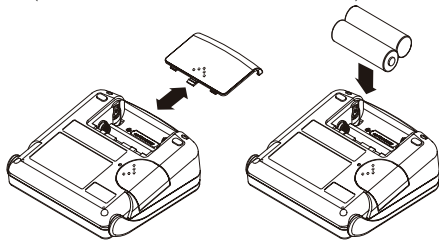
Installing batteries

⚠ Before you install or replace the batteries on your Tuner or Transmitter, be sure to turn off the power to both the transmitter as well as the tuner. The batteries that are included are intended to allow you to check functionality and may have a short life.

If the batteries for the Tuner or Transmitter are low on power, the Tuner low battery indicator will appear on the LCD display of the Tuner. Both units will continue to work for a while, but tuning may not be accurate. Please replace the batteries with new ones as soon as possible.

Installing batteries in the Tuner

1. Gently press down and slide the battery case cover on the rear panel of the Tuner to remove it.
2. Properly orient the batteries and insert them into the unit.
(AA Alkaline batteries recommended)



3. Reattach the battery cover on the Tuner.

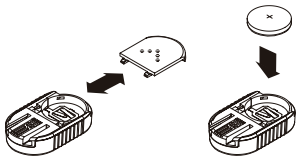
⚠ Please don't charge an alkaline battery.

Installing batteries in the Transmitter

CR2032 batteries that are compatible with the Transmitter

CR2032 batteries made by Panasonic

1. Remove the clip that's attached to the Transmitter, then gently press down and slide the battery case cover on the rear panel of the Transmitter to remove it.
2. Properly orient the battery and insert it into the unit.



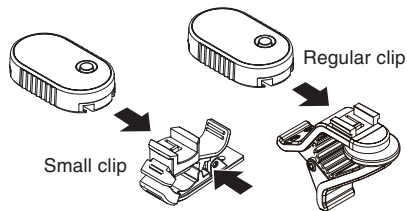
3. Reattach the battery cover on the Transmitter.

Attaching and removing the supplied clip on the Transmitter

Insert the clip into the clip attachment groove on the Transmitter and slide it in all the way. Make sure that you insert the clip in the correct orientation.

To remove the clip, hold the Transmitter securely and slide the clip while holding it by its sides.

- ⚠ When you attach the clip do not touch the connectors on the Transmitter.
- ⚠ Do not pull the clip by grasping the pinching portion of the clip. Otherwise, the clip may break.
- ⚠ When you attach the clip, be sure to slide it in all the way until it is locked, then make sure that it's secure.



Attaching the Transmitter to your musical instrument

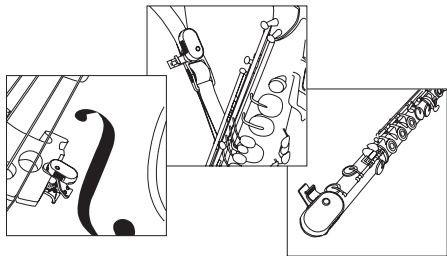
The Wi-Tune measures the pitch of a musical instrument by sensing vibrations from the instrument. These vibrations are picked up by the Transmitter, and wirelessly transmitted to the Tuner. However, depending where the Transmitter is attached to the instrument, the vibrations may not be picked up very well. In this case, try repositioning the Transmitter to pick up these vibrations better.

The Transmitter can be attached to musical instruments such as woodwind, brass or strings instruments. With some musical instruments, such as a saxophone, you can attach the Transmitter to a strap or other part that vibrates, rather than directly to the instrument itself.

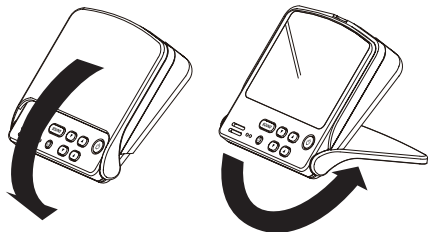
Please refer to the attachment position examples that are shown in the figures to the right.

- ⚠ When you clip the Transmitter to or remove it from the musical instrument, handle it gently. Attaching the Transmitter to the musical instrument for a long period of time may leave a trace on the instrument.
- ⚠ Applying excessive force to the Transmitter or clip may cause damage.

Transmitter attachment position examples



Using the Tuner stand



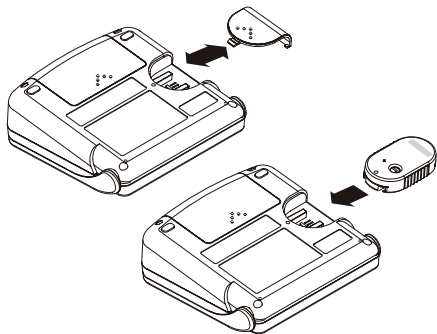
Setting the ID after replacing the Transmitter

The ID setting data is shared by the Tuner and Transmitter. This is done to prevent signal scramble during wireless communication.

An ID was programmed into the Tuner and Transmitter supplied in this Wi-Tune package before they shipped from the factory.

If you are using a different Transmitter (that was not included in this package), you must set the ID on that Transmitter.

1. Gently press down and slide the cover on the right side of the Tuner to remove it.
2. Slide the Transmitter into the Tuner so that the Transmitter will lock into the Tuner's connector.
3. Turn on the power to the Transmitter and Tuner.




note You can do this while the power to each unit is turned on.


When the transmission of the ID data from the Transmitter to the Tuner is complete, the ID indicator will light up on the LCD.

4. After the ID data is transmitted, remove the Transmitter from the Tuner.

The ID indicator on the LCD will turn off.

 If multiple Wi-Tune units are used in the same location, the tuning meter may not respond to the proper instrument, or an incorrect note name may be displayed.

In such cases, resetting the ID will restore communication between the Transmitter and Tuner.

 If there is no input sound for 20 minutes while the Transmitter is turned on, or if the Transmitter and Tuner cannot communicate with each other for two minutes, the power will automatically be turned off.

Turning the power on and off

1. Press the [POWER] button on the Tuner and Transmitter to turn the power on and off.

If there is no input sound for 20 minutes while the Tuner is turned on, the power will automatically be turned off.

Backlight

1. Press the [BACK LIGHT] button. The LCD backlight will turn on.

Pressing the [BACK LIGHT] button will turn the LCD backlight on and off.

Wireless tuning

Once the power to the Tuner and Transmitter is turned on and communication becomes possible, the built-in microphone of the Tuner will turn off, enabling you to use the wireless function. At this time, the wireless indicator will appear on the LCD.

Tuning via wireless microphone

You can use the built-in microphone on the Tuner by only turning on the power to the Tuner. At this time, the MIC indicator on the LCD will turn on.

🔊 Once wireless tuning is enabled, the Tuner will maintain wireless tuning mode even if it is unable to receive a signal because the power to the Transmitter is turned off, the batteries on the Transmitter are exhausted, or the Transmitter is moved outside the range of communication. If you want to switch the Tuner to microphone tuning mode, turn off the power to both the Tuner and Transmitter, then turn on the power to the Tuner only.

Meter mode

Meter mode enables you to tune your instrument by looking at the meter and using the Transmitter or the built-in microphone of the Tuner. In this mode, you can perform either wireless tuning or tuning with the built-in microphone of the Tuner.

1. **Press the [CALIB UP] button or the [CALIB DOWN] button to select the reference pitch.**

You can adjust the reference pitch in 1Hz steps in the range of 410Hz to 480Hz.

2. **Play a single note on your musical instrument to tune.**

The Tuner displays the name of the note closest to the recognized pitch. Tune your instrument so that the Tuner displays the note name that you are turning to.

3. **Play a single note again and tune your instrument so that the tuning guide indicator (the center of the meter) will turn on.**

🔊 When you are using the Tuner's built-in microphone for tuning, try to avoid allowing sounds from sources other than the instrument to be picked up by the microphone.

🔊 Even within the measurable range, a note with lots of harmonics or a quick decay may not be measurable (e.g., especially notes in the extreme bass or treble range of the piano).

note To raise a pitch by a pure major 3rd or a pure minor 3rd, adjust the tuning so that the meter needle will point to the pure major or minor 3rd mark respectively. For example, if you want to raise the note of A (0 cent) by a pure major 3rd, first tune your instrument so that the display will indicate the note name C#, then fine-tune the instrument so that the meter needle will point the down arrow ▼ (-13.7 cents) on the left side of the meter. If you want to raise the note of A (0 cent) by a pure minor 3rd, tune your instrument so that the display will indicate note name C, then fine-tune the instrument so that the meter needle will point the up arrow ▼ (+15.6 cents) on the right side of the meter.

Sound-out mode

In this mode, you can tune your instrument by referring to the oscillator sound at the reference pitch (output from the speaker of the Tuner).

1. Press the [SOUND] button to engage sound-out mode.

2. Press the [SOUND UP] or [SOUND DOWN] button to select the name of the note that you want to tune to.

You can select a pitch in the range of C4 (261.63Hz) to C5 (523.25Hz).

12NOTE: C4 > C#4 > D4 > D#4 > E4 > F4 > F#4 > G4 > G#4 > A4 > A#4 > B4 > C5

3. Tune your instrument while referring to the oscillator sound at the reference pitch output from the Tuner.

4. To exit Sound-out mode, press the [SOUND] button.

Specifications

Operating temperature:	0 – +40°C / +32 – +104°F (non-condensing)
Temperament:	Equal temperament
Measurement range:	A0 (27.50Hz) – C8 (4186.01Hz)
Reference pitch:	C4 (261.63Hz) – C5 (523.25Hz); One octave
Tuning mode:	Meter mode (AUTO), Sound-out mode (MANUAL)
Calibration range:	A4 = 410 – 480Hz (1Hz steps)
Measurement precision:	Within ±1cent
Sound precision:	Within ±1.5cents
Wireless:	2.4GHz band
Speaker:	Dynamics speaker (ø23mm)
Power:	Tuner; AA batteries (x2) = 3V (Alkaline batteries recommended) Transmitter; CR2032 batteries made by Panasonic
Dimensions (W x D x H):	Tuner; 100 x 99 x 34mm / 3.94 x 3.90 x 1.34inches Transmitter; 27 x 45 x 10mm / 1.06 x 1.77 x 0.39inches Regular clip; 56 x 22 x 47mm / 2.20 x 0.87 x 1.85inches Small clip; 44 x 17 x 24mm / 1.73 x 0.67 x 0.94inches
Weight:	Tuner; 204g / 7.20oz. (including batteries) Transmitter; 11g / 0.39oz. (including batteries) Regular clip; 11g / 0.39oz. Small clip; 5g / 0.18oz.
Battery life:	Tuner; Approx. 45hours (during wireless tuning operation with backlight on) Transmitter; Approx. 25hours (continuous A4 input operation)

Accessories: Owner's Manual; AA batteries (x2) and CR2032 lithium battery (3V) (x1) for checking operation; Regular clip or Small clip for attaching to the musical instrument.

* Specifications and appearance are subject to change without notice for improvement.

Précautions

Emplacement

L'utilisation de cet instrument dans les endroits suivants peut entraîner le mauvais fonctionnement.

- En plein soleil
- Endroits très chauds ou très humides
- Endroits sales ou fort poussiéreux
- Endroits soumis à de fortes vibrations
- A proximité de champs magnétiques

Alimentation

Lorsque vous n'utilisez pas l'appareil, n'oubliez pas de le mettre hors tension. Retirez les piles pour éviter toute fuite lorsque l'appareil ne sera pas utilisé pendant de longues périodes de temps.

Interférences avec d'autres appareils électriques

Les postes de radio et de télévision situés à proximité peuvent par conséquent souffrir d'interférences à la réception. Veuillez dès lors faire fonctionner cet appareil à une distance raisonnable de postes de radio et de télévision.

Maniement

Pour éviter de les endommager, manipulez les commandes et les boutons de cet instrument avec soin.

Entretien

Lorsque l'instrument se salit, nettoyez-le avec un chiffon propre et sec. Ne vous servez pas d'agents de nettoyage liquides tels que du benzène ou du diluant, voire des produits inflammables.

Conservez ce manuel

Après avoir lu ce manuel, veuillez le conserver soigneusement pour toute référence ultérieure.

Évitez toute intrusion d'objets ou de liquide

Ne placez jamais de récipient contenant du liquide près de l'instrument. Si le liquide se renverse ou coule, il risque de provoquer des dommages, un court-circuit ou une électrocution. Veuillez à ne pas laisser tomber des objets métalliques dans le boîtier (trombones, par ex.).

ATTENTION

Il y a risque d'explosion en cas d'utilisation de piles d'un type non adéquat. Mettez les piles au rebut conformément aux instructions données.

Note concernant les dispositions (Seulement EU)

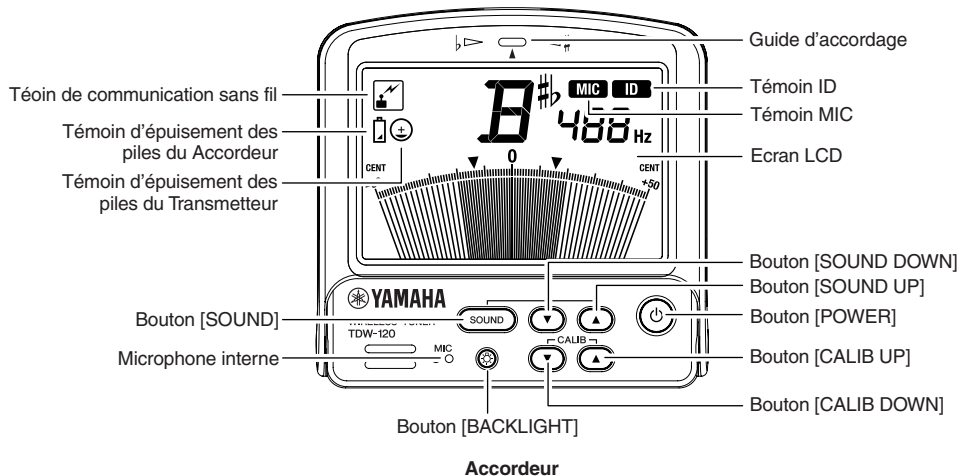


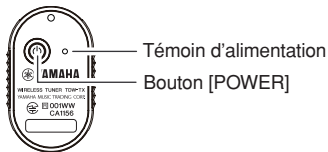
Quand un symbole avec une poubelle barrée d'une croix apparaît sur le produit, le mode d'emploi, les piles ou le pack de piles, cela signifie que ce produit, manuel ou piles doit être déposé chez un représentant compétent, et non pas dans une poubelle ou toute autre déchetterie conventionnelle.

Disposer de cette manière, de prévenir les dommages pour la santé humaine et les dommages potentiels pour l'environnement. La bonne méthode d'élimination dépendra des lois et règlements applicables dans votre localité, s'il vous plaît, contactez votre organisme administratif pour plus de détails. Si la pile contient des métaux lourds au-delà du seuil réglementé, un symbole chimique est affiché en dessous du symbole de la poubelle barrée d'une croix sur la pile ou le pack de piles.

Merci d'avoir choisi l'accordeur sans fil TDW-120 de Yamaha. Afin d'exploiter au mieux toutes les possibilités de votre nouvel accordeur, veuillez lire attentivement ce manuel.

Description





Transmetteur

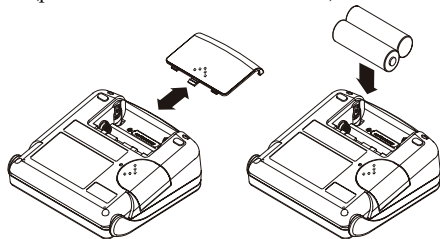
Installation des piles

⚠ Avant d'insérer ou de remplacer les piles de votre Accordeur ou Transmetteur, mettez le transmetteur ET l'accordeur hors tension. Les piles fournies sont destinées à vérifier le fonctionnement du dispositif et ont une durée de vie assez brève.

Si les piles du Accordeur ou du Transmetteur s'épuisent, le témoin d'épuisement des piles Accordeur apparaît sur l'écran LCD du Accordeur. Les deux appareils continuent à fonctionner un certain temps mais l'accordage peut manquer de précision. Remplacez les anciennes piles par des neuves aussi vite que possible.

Installation des piles dans le Accordeur

1. Appuyez doucement sur le couvercle du compartiment à piles situé à l'arrière du Accordeur et faites-le glisser pour le retirer.
2. Orientez convenablement les piles et insérez-les dans le produit.
(piles AA alcalines recommandées)



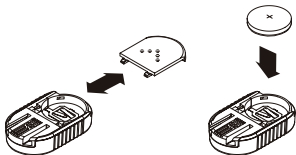
3. Refermez le couvercle du compartiment à piles du Accordeur.

⚠ Ne chargez jamais une pile alcaline.

Installation de la pile dans le Transmetteur

Piles CR2032 compatibles avec le Transmetteur
Piles CR2032 fabriquées par Panasonic

1. Retirez le clip fixé au Transmetteur puis appuyez doucement sur le couvercle du compartiment à pile à l'arrière du Transmetteur et faites-le glisser pour le retirer.
2. Orientez convenablement la pile et insérez-la dans le dispositif.



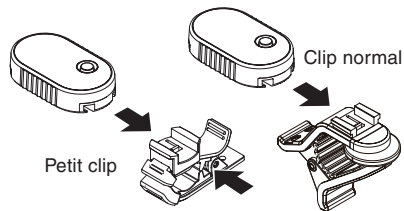
3. Replacez le couvercle du compartiment à pile du Transmetteur.

Fixer et retirer le clip du Transmetteur

Insérez le clip dans la fente de fixation pour clip sur le Transmetteur et insérez le clip jusqu'au bout. Veillez à l'insérer dans le bon sens.

Pour retirer le clip, maintenez les côtés droit et gauche du clip de puis extrayez-le/la du Transmetteur.

- ⚠ Lors de la fixation du clip, ne touchez pas les connecteurs du Transmetteur.
- ⚠ Ne tirez pas sur le clip en le tenant par la pince. Faute de quoi, le clip risque de rompre.
- ⚠ Quand vous fixez le clip, veillez à l'insérez à fond jusqu'à ce qu'il (elle) soit bloqué(e) et vérifiez qu'il (elle) est bien fixé(e).



Installation du Transmetteur sur votre instrument de musique

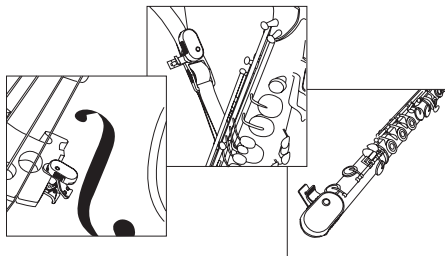
Le Wi-Tune mesure la hauteur d'une note produite par un instrument de musique en détectant les vibrations produites par l'instrument. Ces vibrations sont captées par le Transmetteur et transmises sans fil au Accordeur. Cependant, selon l'endroit où le Transmetteur est fixé à l'instrument, les vibrations peuvent être mal captées. Dans ce cas, changez l'emplacement du Transmetteur pour mieux capter ces vibrations.

Le Transmetteur peut être attaché à des instruments de la famille des bois, des cuivres ou des cordes. Avec certains instruments, comme un saxophone, vous pouvez fixer le Transmetteur à une sangle ou à un autre élément vibrant au lieu de l'attacher à l'instrument même.

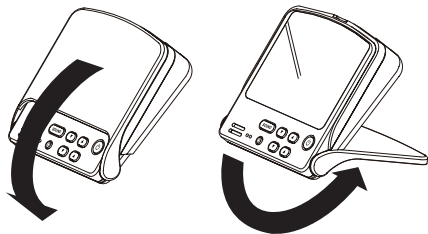
Voyez les exemples de fixations illustrés.

- ⚠ Quand vous fixez le Transmetteur à l'instrument ou quand vous l'en détachez, maniez-le avec douceur. Si vous laissez le Transmetteur fixé longtemps à l'instrument, ce dernier risque d'en porter la trace.
- ⚠ Si vous exercez une force excessive sur le Transmetteur ou le clip, vous risquez de l'endommager.

Exemples de positions de fixation du Transmetteur



Utilisation du pied de l'Accordeur



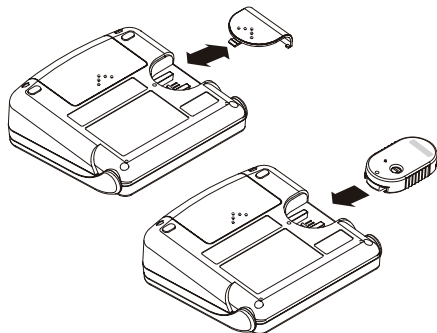
Réglage d'identification après le remplacement du Transmetteur

Les données d'identification sont partagées par l'Accordeur et le Transmetteur. Cette identification évite tout brouillage du signal durant la communication sans fil.

Le Accordeur et le Transmetteur fournis avec cet ensemble Wi-Tune ont reçu des données d'identification en usine.

Si vous utilisez un autre Transmetteur que celui fourni avec cet ensemble, réglez les données d'identification en fonction de ce Transmetteur.

1. Appuyez doucement sur le couvercle situé sur le côté droit de l'Accordeur et faites-le glisser pour le retirer.
2. Insérez le Transmetteur dans l'Accordeur pour brancher le Transmetteur au connecteur de l'Accordeur.
3. Mettez le Transmetteur et le Accordeur sous tension.



note Vous pouvez effectuer cette opération quand les deux dispositifs sont sous tension.

Quand la transmission de données d'identification du Transmetteur au Accordeur est terminée, le témoin ID s'allume sur l'écran LCD.

4. **Après la transmission des données d'identification, extrayez le Transmetteur du Accordeur.**

Le témoin ID disparaît de l'écran LCD.

⚠ Si vous utilisez plusieurs dispositifs Wi-Tune au même endroit, il peut arriver que l'accordeur ne détecte pas le bon instrument ou que la note affichée soit incorrecte. Dans ce cas, réglez l'identification pour rétablir la communication entre le Transmetteur et le Accordeur.

⚠ Si aucun signal n'est produit durant 20 minutes alors que le Transmetteur est sous tension ou si le Transmetteur et le Accordeur ne parviennent pas à communiquer l'un avec l'autre dans les deux minutes, l'alimentation est automatiquement coupée.

Mise sous/hors tension

1. Appuyez sur le bouton [POWER] du Accordeur et du Transmetteur pour les mettre sous/hors tension.

Si aucun signal n'est produit durant 20 minutes alors que le Accordeur est sous tension, l'alimentation est automatiquement coupée.

Rétroéclairage

1. Appuyez sur le bouton [BACK LIGHT]. Le rétroéclairage de l'écran LCD s'allume.

Chaque pression sur le bouton [BACK LIGHT] allume et éteint alternativement le rétroéclairage de l'écran LCD.

Accordage sans fil

Quand le Accordeur et le Transmetteur sont sous tension et la communication établie, le micro interne du Accordeur s'éteint et vous permet d'utiliser la communication sans fil. Le témoin de communication sans fil apparaît à l'écran LCD.

Accordage avec le micro intégré

Vous pouvez utiliser le micro interne du Accordeur en ne mettant que le Accordeur sous tension. Le témoin MIC apparaît à l'écran LCD.

🔊 Quand vous êtes en mode d'accordage sans fil, le Accordeur maintient ce mode même s'il ne reçoit pas de signal parce que le Transmetteur est éteint, parce que la pile du Transmetteur est usée ou parce que le Transmetteur est placé hors de portée de communication. Pour faire passer le Accordeur en mode d'accordage par micro, mettez le Accordeur et le Transmetteur hors tension puis remettez uniquement le Accordeur sous tension.

Mode visuel

Le mode visuel vous permet d'accorder votre instrument en vous référant au vumètre et en utilisant le Transmetteur ou le micro interne du Accordeur. Ce mode vous permet d'accorder l'instrument sans fil ou en utilisant le micro interne du Accordeur.

1. Appuyez sur le bouton [CALIB UP] ou [CALIB DOWN] pour sélectionner le diapason.

Vous pouvez régler le diapason par paliers de 1Hz sur une plage comprise entre 410Hz et 480Hz.

2. Jouez une seule note sur l'instrument à accorder.

Le Accordeur affiche alors le nom de la note dont la hauteur se rapproche le plus de celle de la note jouée. Accordez votre instrument jusqu'à ce que le Accordeur affiche la note voulue.

3. Jouez une note sur l'instrument et accordez-la jusqu'à ce que le guide d'accordage (le centre du vumètre) s'allume.

🔊 Quand vous utilisez le micro interne du Accordeur pour l'accordage, veillez à ce que le micro ne capte que le son de l'instrument à accorder.

🔊 Une note comportant de nombreuses harmoniques ou ayant une chute rapide peut ne pas être mesurable (c'est parfois le cas pour les notes situées aux extrémités grave et aiguë du piano, par exemple).

note Si vous souhaitez que l'accord soit décalé d'une tierce majeure pure ou d'une tierce mineure pure par rapport à une note donnée, accordez l'instrument pour que l'aiguille du vumètre indique la marque de la tierce majeure ou mineure pure.

Si, par exemple, vous voulez décaler la note A (La, 0 cent) d'une tierce majeure pure, accordez d'abord votre instrument pour afficher la note C#, puis poursuivez l'accordage pour amener l'aiguille sur la flèche ▼ (-13,7 cents) située à gauche du centre. Si, par contre, vous voulez décaler la note A (La, 0 cent) d'une tierce mineure pure, accordez d'abord votre instrument pour afficher la note C, puis poursuivez l'accordage pour amener l'aiguille sur la flèche ▼ (+15,6 cents) située à droite du centre.

Mode auditif

Ce mode vous permet d'accorder votre instrument en vous servant du diapason (son produit par l'oscillateur à la hauteur de référence et émis par le haut-parleur du Accordeur).

1. **Appuyez sur le bouton [SOUND] pour passer en mode auditif.**
2. **Appuyez sur le bouton [SOUND UP] ou [SOUND DOWN] pour choisir la note que vous voulez obtenir.**

Vous pouvez choisir une note sur la plage allant de C4 (261,63Hz) à C5 (523,25Hz).
12NOTE: C4 (Do4) > C#4 (Do#4) > D4 (Ré4) > E^b4 (Misi4) > E4 (Mi4) > F4 (Fa4) > F#4 (Fa#4) > G4 (Sol4) > G#4 (Sol#4) > A4 (La4) > B^b4 (Sisi4) > B4 (Si4) > C5 (Do5)

3. **Accordez votre instrument en vous servant du son du diapason produit par l'oscillateur et émis par le haut-parleur du Accordeur.**
4. **Pour quitter le mode auditif, appuyez sur le bouton [SOUND].**

Fiche technique

Température de Fonctionnement:	0 ~ +40°C (non-condensation)
Tempérament:	Tempérament égal
Plage de mesure:	A0 (27,50Hz) ~ C8 (4186,01Hz)
Hauteur de référence:	C4 (261,63Hz) ~ C5 (523,25Hz); une octave
Mode d'accordage:	Mode visuel (AUTO), Mode auditif (MANUAL)
Plage de calibrage du diapason:	A4= 410 ~ 480Hz (par palier de 1Hz)
Précision de la mesure:	±1cent
Précision du son:	±1,5cents
Système sans fil:	Bande de 2,4GHz
Haut-parleur:	Dynamique (ø23mm)
Alimentation:	Accordeur; Piles AA (x 2) = 3V (piles alcalines recommandées) Transmetteur; Piles CR2032 fabriquées par Panasonic
Dimensions (L x H x P):	Accordeur; 100 x 99 x 34mm Transmetteur; 27 x 45 x 10mm Clip normal; 56 x 22 x 47mm Petit clip; 44 x 17 x 24mm
Poids:	Accordeur; 204g (piles comprises) Transmetteur; 11g (piles comprises) Clip normal; 11g Petit clip; 5g
Autonomie des piles:	Accordeur; environ 45heures (en mode d'accordage sans fil avec rétroéclairage) Transmetteur; environ 25heures (entrée en continu d'un La4)

Accessoires: Mode d'emploi; Piles AA (x2) et pile au lithium CR2032 (3V) (x1) destinées à vérifier le fonctionnement de l'appareil; Clip normal ou Petit clip pour fixation sur un instrument de musique.

* Les caractéristiques et l'aspect du produit sont susceptibles d'être modifiés sans avis préalable en vue d'une amélioration.

Vorsichtsmaßnahmen

Aufstellungsort

Vermeiden Sie das Aufstellen des Geräts an Orten, an denen

- es direkter Sonneneinstrahlung ausgesetzt ist;
- hohe Feuchtigkeit oder Extremtemperaturen auftreten können;
- Staub oder Schmutz in großen Mengen vorhanden sind;
- das Gerät Erschütterungen ausgesetzt sein kann.
- in der Nähe eines Magnetfeldes.

Stromversorgung

Stellen Sie den Netzschalter auf OFF, wenn das Gerät nicht benutzt wird. Wenn Sie das Gerät über einen längeren Zeitraum nicht benutzen, nehmen Sie die Batterien heraus, damit sie nicht auslaufen.

Störeinflüsse auf andere Elektrogeräte

Dieser kann bei in der Nähe aufgestellten Rund-funkempfängern oder Fernsehgeräten Empfangsstörungen hervorrufen. Betreiben Sie solche Geräte nur in einem geeigneten Abstand von diesem Erzeugnis.

Bedienung

Vermeiden Sie bei der Bedienung von Schaltern und Reglern unangemessenen Kraftaufwand.

Reinigung

Bei auftretender Verschmutzung können Sie das Gehäuse mit einem trockenen, sauberen Tuch abwischen. Verwenden Sie keinerlei Flüssigreiniger wie beispielsweise Reinigungsbenzin, Verdünnungs- oder Spülmittel. Verwenden Sie niemals brennbare Reiniger.

Bedienungsanleitung

Bewahren Sie diese Bedienungsanleitung gut auf, falls Sie sie später noch einmal benötigen.

Flüssigkeiten und Fremdkörper

Stellen Sie niemals Behältnisse mit Flüssigkeiten in der Nähe des Geräts auf. Wenn Flüssigkeit in das Gerät gelangt, können Beschädigung des Geräts, Feuer oder ein elektrischer Schlag die Folge sein. Beachten Sie, daß keinerlei Fremdkörper in das Gerät gelangen.

VORSICHT

Bei Verwendung des falschen Batterietyps besteht Explosionsgefahr. Bitte entsorgen Sie verbrauchte Batterien immer den örtlichen Umweltbestimmungen entsprechend.

Hinweis zur Entsorgung (Nur EU)



Wenn Sie das Symbol mit der „durchgekreuzten Mülltonne“ auf Ihrem Produkt, der dazugehörigen Bedienungsanleitung, der Batterie oder dem Batteriefach sehen, müssen Sie das Produkt in der vorgeschriebenen Art und Weise entsorgen. Dies



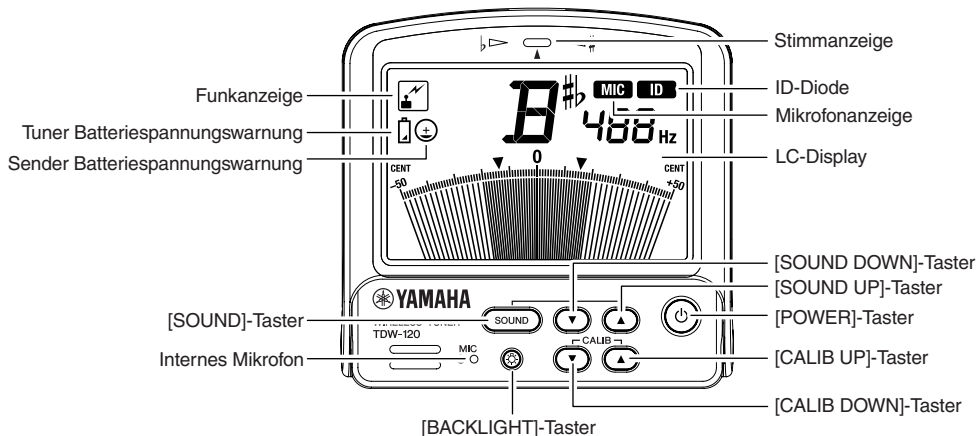
bedeutet, dass dieses Produkt mit elektrischen und elektronischen Komponenten nicht mit dem normalen Hausmüll entsorgt werden darf. Für Produkte dieser Art existiert ein separates, gesetzlich festgelegtes Entsorgungssystem. Gebrauchte elektrische und

elektronische Geräte müssen separat entsorgt werden, um ein umweltgerechtes Recycling sicherzustellen. Diese Produkte müssen bei benannten Sammelstellen abgegeben werden. Die Entsorgung ist für den Endverbraucher kostenfrei! Bitte erkundigen sie sich bei ihrer zuständigen Behörde, wo sie diese Produkte zur fachgerechten Entsorgung abgeben können. Falls ihr Produkt mit Batterien oder Akkumulatoren ausgerüstet ist, müssen sie diese vor Abgabe des Produktes entfernen und separat entsorgen (siehe oben). Die Abgabe dieses Produktes bei einer zuständigen Stelle hilft ihnen, dass das Produkt umweltgerecht entsorgt wird. Damit leisten sie persönlich einen nicht unerheblichen Beitrag zum Schutz der Umwelt und der menschlichen Gesundheit vor möglichen negativen Effekten durch unsachgemäße Entsorgung von Müll. Batterien oder Akkus, die Schadstoffe enthalten, sind auch mit dem Symbol einer durchgekreuzten Mülltonne gekennzeichnet. In der Nähe zum Mülltonnensymbol befindet sich die chemische Bezeichnung des Schadstoffes.

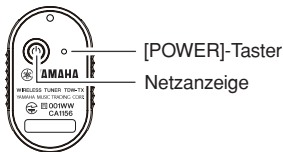
Cd oder NiCd steht für Cadmium, Pb für Blei und Hg für Quecksilber.

Vielen Dank, dass Sie sich für einen Funkstimmgerät TDW-120 von Yamaha entschieden haben.
Bitte lesen Sie sich diese Anleitung vollständig durch, um bei der Bedienung alles richtig zu machen.

Bedienelemente und Funktionen



Tuner



Sender

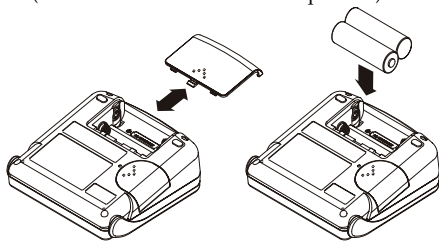
Einlegen der Batterien

⚠ Vor dem Batteriewechsel im Tuner oder Sender müssen Sie sowohl den Sender als auch das Stimmgerät ausschalten. Die im Lieferumfang enthaltenen Batterien sind nur für Testzwecke gedacht und haben eine entsprechend kurze Laufzeit.

Wenn die Batterien des Tuner oder Sender fast erschöpft sind, erscheint die Tuner Batteriespannungswarnung im LC-Display des Tuner. Beide Geräte funktionieren dann zwar noch eine Weile, allerdings könnte die Stimmgenauigkeit etwas nachlassen. Bitte wechseln Sie die Batterien daher so schnell wie möglich aus.

Einlegen von Batterien in den Tuner

1. Drücken Sie die Batteriefachblende auf der Rückseite des Tuner leicht hinunter und schieben Sie sie nach hinten, um sie zu entnehmen.
2. Legen Sie die Batterien richtig herum in das Fach.
(AA-Alkalibatterien werden empfohlen)



3. Bringen Sie die Batteriefachblende des Tuner wieder an.

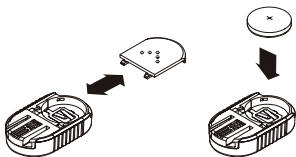
⚠ Eine Alkalibatterie kann man nicht wieder aufladen.

Einlegen einer Batterie in den Sender

CR2032-Batterien, die mit dem Sender verwendet werden können

CR2032 Batterien von Panasonic

1. **Entfernen Sie den am Sender befestigten Clip, drücken Sie die Batteriefachblende auf der Rückseite des Sender leicht hinunter und schieben Sie sie nach hinten, um sie zu entnehmen.**
2. **Legen Sie die Batterie richtig herum in das Fach.**



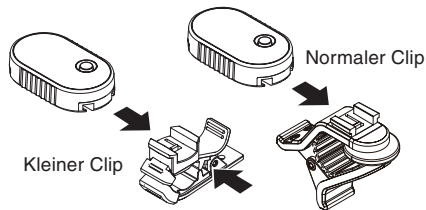
3. **Bringen Sie die Batteriefachblende des Sender wieder an.**

Befestigen und Entfernen des Clips auf der Rückseite des Sender

Schieben Sie den Clip komplett in die Kerbe des Sender. Achten Sie beim Anbringen des Clips auf die richtige Anordnung.

Zum Entfernen müssen Sie die rechte und linke Seite des Clips festhalten, während Sie ihn aus dem Sender ziehen.

- ⚠ Beim Anbringen des Clips dürfen Sie die Anschlüsse des Sender auf keinen Fall berühren.
- ⚠ Ziehen Sie niemals am Clip, während Sie seine Klemmpartie festhalten. Sonst könnte der Clip nämlich brechen.
- ⚠ Beim Anbringen des Clips müssen Sie darauf achten, ihn so weit zu schieben, bis er festklickt. Überprüfen Sie anschließend, ob er tatsächlich festsetzt.



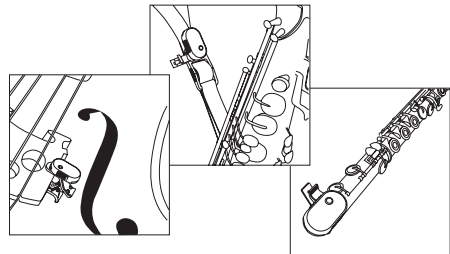
Anbringen des Sender auf Ihrem Musikinstrument

Der Wi-Tune misst die Stimmung eines Musikinstruments anhand der erzeugten Schwingungen. Diese Schwingungen werden vom Sender empfangen und über Funk zum Tuner übertragen. Der Ort, an dem der Sender auf dem Instrument angebracht wird, muss mit Bedacht gewählt werden, damit die Schwingungen auch richtig erkannt werden. Ändern Sie bei Bedarf die Platzierung des Sender. Der Sender kann auf Musikinstrumenten wie Holzblas-, Blech- und Streichinstrumenten angebracht werden. Bei bestimmten Instrumen-

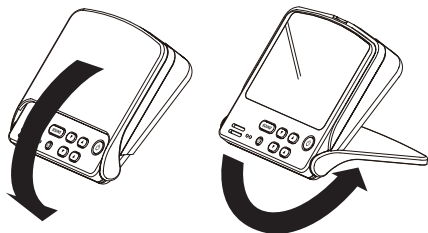
ten wie einem Saxophon sollten Sie den Sender an einem Gurt oder einer mitschwingenden Partie statt direkt auf dem Instrument anbringen. Am besten wählen Sie eine der rechts gezeigten Installationspositionen.

- ⚠ Behandeln Sie den Sender beim Anbringen am Instrument bzw. beim Entfernen mit der gebührenden Umsicht. Wenn Sie den Sender längere Zeit auf dem Instrument lassen, hinterlässt er eventuell Spuren.
- ⚠ Eine zu forsche Behandlung des Sender oder Clips kann zu Schäden führen.

Installationsbeispiele für den Sender



Verwendung des Tuner Stativs

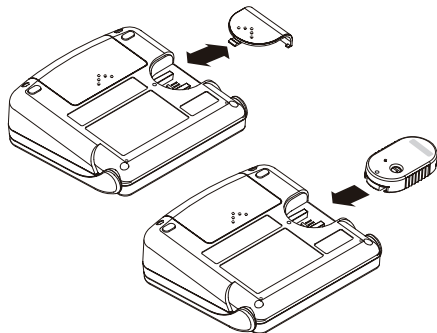


Einstellen der ID-Nummer bei Verwendung eines anderen Sender

Ein Tuner und Sender müssen unbedingt dieselbe ID-Nummer verwenden. Damit werden nämlich Störeinstreuungen während der Funkverbindung verhindert. Ab Werk sind der Tuner und Sender des Wi-Tune bereits mit einer passenden ID-Nummer versehen.

Wenn Sie jedoch einen anderen Sender verwenden (der nicht im Lieferumfang enthalten war), müssen Sie die ID-Nummer jenes Sender ändern.

1. Drücken Sie die Blende an der rechten Seite des Tuner leicht hinunter und schieben Sie sie heraus, um sie zu entnehmen.
2. Schieben Sie den Sender auf den Tuner. Der Sender muss im Anschluss des Tuner einrasten.
3. Schalten Sie den Sender und Tuner ein.





note Zum Herstellen dieser Verbindung brauchen die Geräte nicht ausgeschaltet zu werden.

Wenn der Sender seine ID-Daten zum Tuner übertragen hat, leuchtet die ID-Anzeige im LC-Display.

4. **Koppeln Sie den Sender nach der Übertragung der ID-Informationen wieder vom Tuner ab.**

Die ID-Anzeige verschwindet wieder aus dem LC-Display.

 Wenn mehrere Wi-Tune Einheiten am gleichen Ort betrieben werden, zeigt die Nadel eventuell nicht die Stimmung des erwarteten Instruments bzw. einen falschen Notennamen an. Meistens lässt sich dieses Kommunikationsproblem zwischen dem Sender und Tuner durch eine Neuprogrammierung der ID-Nummer beheben.

 Wenn der Sender im eingeschalteten Zustand 20 Minuten lang kein Eingangssignal empfängt bzw. wenn der Sender länger als zwei Minuten nicht mit dem

Tuner kommunizieren kann, wird er automatisch ausgeschaltet.

Ein- und Ausschalten

1. Drücken Sie den [POWER]-Taster des Tuner und Sender, um beide einzuschalten.

Wenn der Tuner im eingeschalteten Zustand 20 Minuten lang kein Eingangssignal empfängt, wird er automatisch ausgeschaltet.

Display-Beleuchtung

1. Drücken Sie den [BACK LIGHT]-Taster. Damit aktivieren Sie die Display-Beleuchtung.


Drücken Sie den [BACK LIGHT]-Taster erneut, um die Display-Beleuchtung wieder auszuschalten.

Stimmen über Funk

Nach dem Einschalten des Tuner und Sender und nach dem erfolgreichen Aufbau einer Verbindung wird das interne Mikrofon des Tuner zugunsten der Funkverbindung deaktiviert. Dann erscheint die Funkanzeige im LC-Display.

Stimmen mit dem Funkmikrofon

Um das interne Mikrofon des Tuner zu verwenden, brauchen Sie nur den Tuner einzuschalten. Dann erscheint die MIC-Anzeige im LC-Display.

 Wenn die Funkverbindung einmal aktiviert wurde, bleibt der Tuner selbst im Funkmodus, wenn er kein Signal mehr vom Sender empfängt (z.B. weil Sie ihn ausgeschaltet haben, weil seine Batterie erschöpft ist bzw. weil er sich außerhalb der Reichweite befindet). Um das Mikrofon des Tuner wieder zu aktivieren, müssen Sie sowohl den Tuner als auch den Sender aus- und danach nur den Tuner wieder einschalten.

Metermodus

Im Metermodus können Sie Ihr Instrument anhand der Meternadel und mit dem Sender bzw. dem internen Mikrofon des Tuner stimmen. In diesem Modus können Sie selbst entscheiden, ob Sie den Sender oder aber das interne Mikrofon des Tuner verwenden möchten.


1. Wählen Sie mit dem [CALIB UP]- oder [CALIB DOWN]-Taster die Kammertonfrequenz.


Die Kammertonfrequenz kann im Bereich 410Hz–480Hz in 1Hz-Schritten eingestellt werden.

2. Spielen Sie eine Note auf Ihrem Instrument, um deren Stimmung zu überprüfen.

Der Tuner zeigt jetzt den Namen der am nächsten liegenden Note an. Stimmen Sie das Instrument zunächst so, dass der Tuner den richtigen Notennamen anzeigt.

3. Spielen Sie die betreffende Note erneut, damit die Stimmanzeige (in der Mitte) erscheint.

 Wenn Sie Ihr Instrument mit dem internen Mikrofon des Tuner stimmen, darf es keine lauten Hintergrundgeräusche geben, weil die Messung sonst unzuverlässig ist.

 Es kann vorkommen, dass obertonreiche oder sehr kurze Noten (z.B. im Tiefbass oder Extremdiskant) nicht zuverlässig gemessen werden können.

 Um das Instrument eine reine große oder kleine Terz höher zu stimmen, müssen Sie seine Tonhöhe so weit anheben, bis die Nadel die betreffende Position anzeigt. Beispiel: Wenn Sie die Note „A“ (0 Cent) eine reine große Terz höher stimmen möchten, müssen Sie zunächst dafür sorgen, dass die Note „C#“ erkannt wird. Stimmen Sie das Instrument anschließend so, dass die Nadel auf das „▼“-Symbol (-13,7 Cent) in der linken Hälfte zeigt. Wenn Sie die Note „A“ (0 Cent) eine reine kleine Terz höher stimmen möchten, müssen Sie zunächst dafür sorgen, dass die Note „C“ erkannt wird. Stimmen Sie das Instrument anschließend so, dass die Nadel auf das „▼“-Symbol (+15,6 Cent) in der rechten Hälfte zeigt.

Referenztonausgabe

In diesem Modus können Sie Ihr Instrument anhand des vom internen Oszillator ausgegebenen Referenztons stimmen (zu diesem Zweck enthält der Tuner einen Lautsprecher).

1. Drücken Sie den [SOUND]-Taster, um die Referenztonausgabe zu starten.

2. Wählen Sie mit dem [SOUND UP]- oder [SOUND DOWN]-Taster den Namen der gewünschten Referenznote.

Es kann eine Note im Bereich „C4“ (261,63Hz) bis „C5“ (523,25Hz) gewählt werden.
12NOTE: C4 › C#4 › D4 › D#4 › E4 › F4 › F#4 › G4 › G#4 › A4 › A#4 › B4 › C5

3. Stimmen Sie Ihr Instrument anhand des ausgegebenen Referenztons.

4. Drücken Sie den [SOUND]-Taster, um die Referenztonausgabe zu beenden.

Technische Daten

Betriebstemperatur:	0 – +40°C (nicht das Kondensieren)
Stimmungssystem:	Gleichschwebende (temperierte) Stimmung
Messbereich:	A0 (27,50Hz) – C8 (4186,01Hz)
Kammertonfrequenz:	C4 (261,63Hz) – C5 (523,25Hz); Eine Oktave
Stimm-Modus:	Metermodus (AUTO), Referenztonausgabe (MANUAL)
Kammertonfrequenz:	A4=410 – 480Hz (in 1Hz-Schritten)
Messgenauigkeit:	Bis auf ±1Cent genau
Referenztongenauigkeit:	Innerhalb ±1,5Cent
Funksystem:	2,4GHz-Band
Lautsprecher:	Dynamischer Lautsprecher (ø23mm)
Stromversorgung:	Tuner; AA-Batterien (x2)= 3V (Alkalibatterien werden empfohlen) Sender; CR2032 Batterien von Panasonic
Abmessungen(B x T x H):	Tuner; 100 x 99 x 34mm Sender; 27 x 45 x 10mm Normaler Clip; 56 x 22 x 47mm Kleiner Clip; 44 x 17 x 24mm
Gewicht:	Tuner; 204g (mit Batterien) Sender; 11g (mit Batterien) Normaler Clip; 11g Kleiner Clip; 5g
Batterielaufzeit:	Tuner; ±45Stunden (beim Stimmen im Funkbetrieb und aktiver Hintergrundbeleuchtung) Sender; ±25Stunden (kontinuierlicher Empfang der Note „A4“)

Lieferumfang: Bedienungsanleitung; AA-Batterien (x2) und CR2032 Lithium-Batterie (3V)
x1 für Testzwecke; Normaler clip oder Kleiner clip für die Befestigung am
Musikinstrument

* Änderungen der technischen Daten und des Designs ohne vorherige Ankündigung vorbehalten.

Precauciones

Ubicación

El uso de la unidad en las siguientes ubicaciones puede dar como resultado un mal funcionamiento:

- Expuesto a la luz directa del sol
- Zonas de extrema temperatura o humedad
- Zonas con exceso de suciedad o polvo
- Zonas con excesiva vibración
- Cercano a campos magnéticos

Fuente de alimentación

Apague la unidad cuando no la use la batería. Retire las baterías si no va a usar la unidad durante un tiempo largo.

Interferencias con otros aparatos

Las radios y televisores situados cerca pueden experimentar interferencias en la recepción. Opere este dispositivo a una distancia prudencial de radios y televisores.

Manejo

Para evitar una rotura, no aplique excesiva fuerza a los conmutadores o controles.

Cuidado

Si exterior se ensucia, límpiase con un trapo seco. No use líquidos limpiadores como disolvente, ni compuestos inflamables.

Guarde este manual

Después de leer este manual, guárdelo para futuras consultas.

Mantenga los elementos externos alejados del equipo

Nunca coloque ningún recipiente con líquido cerca de este equipo, podría causar un cortocircuito, fuero o descarga eléctrica. Cuide de que no caiga ningún objeto metálico dentro del equipo.

PRECAUCIÓN

Si sustituye la batería por una de un tipo incorrecto, ésta podría explotar. Deseche las baterías usadas siguiendo las instrucciones.

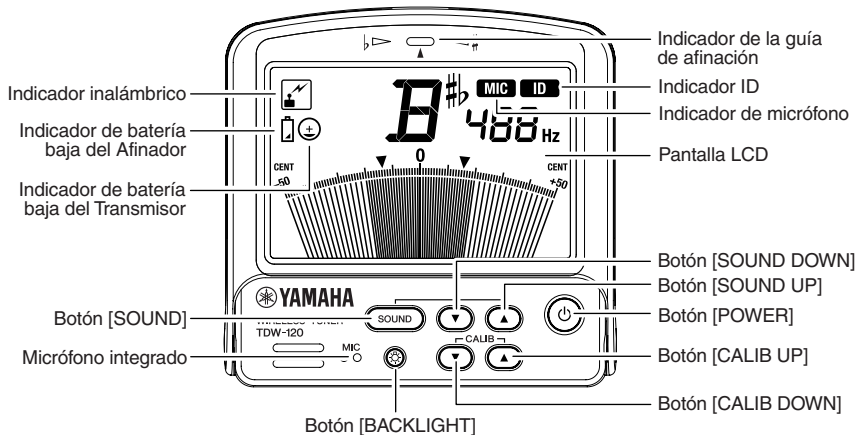
Nota respecto a residuos y deshechos (solo UE)



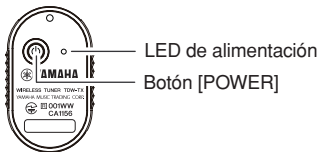
Cuando aparezca el símbolo del cubo de basura tachado sobre un producto, su manual de usuario, la batería, o el embalaje de cualquiera de éstos, significa que cuando quiere tire dichos artículos a la basura, ha de hacerlo en acuerdo con la normativa vigente de la Unión Europea. No debe verter dichos artículos junto con la basura de casa. Verter este producto de manera adecuada ayudará a evitar daños a su salud pública y posibles daños al medioambiente. Cada país tiene una normativa específica acerca de cómo verter productos potencialmente tóxicos, por tanto le rogamos que se ponga en contacto con su oficina o ministerio de medioambiente para más detalles. Si la batería contiene metales pesados por encima del límite permitido, habrá un símbolo de un material químico, debajo del símbolo del cubo de basura tachado.

Gracias por adquirir el afinador inalámbrico TDW-120 de YAMAHA. Por favor, lea este manual atentamente y guárdelo para futuras consultas.

Part names



Afinador



Transmisor

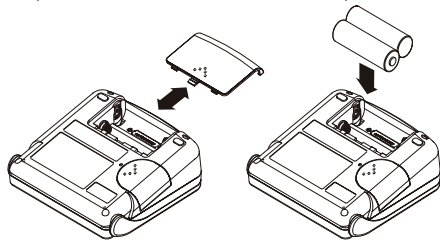
Instalar las baterías

⚠ Antes de instalar o sustituir las baterías del Afinador o del Transmisor, compruebe que haya desactivado tanto el transmisor como el afinador. Las baterías incluidas sirven para comprobar la funcionalidad, y su vida útil puede ser reducida.

Si las baterías del Afinador o del Transmisor están a punto de agotarse, aparecerá el indicador de batería baja del Afinador en la pantalla LCD del Afinador. Ambas unidades continuarán funcionando unos minutos, pero es posible que la afinación no sea demasiado precisa. Sustituya las baterías lo antes posible.

Instalar baterías en el Afinador

1. Gently press down and slide the battery case cover on the rear panel of the Afinador to remove it.
2. Properly orient the batteries and insert them into the unit.
(recomendado baterías AA alcalinas)



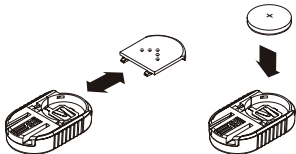
3. Vuelva a colocar la tapa de las baterías en el Afinador.

⚠ No utilice baterías alcalinas.

Instalar baterías en el Transmisor

CR2032 baterías compatibles con el Transmisor
CR2032 baterías fabricadas por Panasonic

1. Retire el clip del WRTX, y luego presione levemente y deslice la tapa de las baterías en el panel posterior del Transmisor para retirarla.
2. Coloque la batería con la orientación correcta e insértela en la unidad.



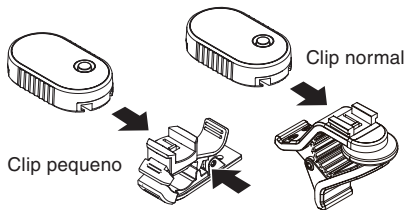
3. Vuelva a colocar la tapa de las baterías en el Transmisor.

Colocar y retirar el clip adjunto en el Transmisor

Inserte el clip o la correa en la ranura correspondiente del Transmisor y deslícelo completamente. Compruebe que inserta el clip o la correa con la orientación correcta.

Al retirarlo, sujete el clip o la correa por el lado derecho e izquierdo y deslícelo separándolo del Transmisor.

- ⚠ Cuando coloque el clip no toque los conectores del Transmisor.
- ⚠ No tire del clip sujetándolo por la parte de sujeción. En caso contrario, el clip o la correa podrían romperse.
- ⚠ Cuando coloque el clip o la correa, deslícelo completamente hasta bloquearlo y luego compruebe que haya quedado firmemente conectado.



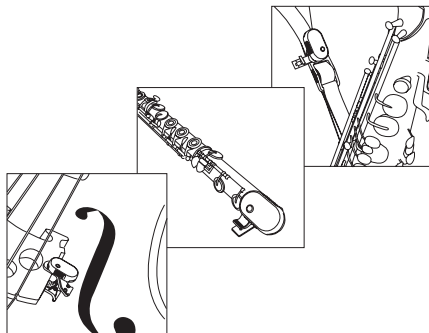
Colocar el Transmisor en el instrumento musical

El Wi-Tune mide la afinación de un instrumento musical captando las vibraciones de dicho instrumento. El Transmisor captura estas vibraciones y las transmite de forma inalámbrica al Afinador. No obstante, según la posición del instrumento donde se coloque el Transmisor, es posible que las vibraciones no se capturen correctamente. En este caso, vuelva a colocar el Transmisor para intentar capturar mejor las vibraciones.

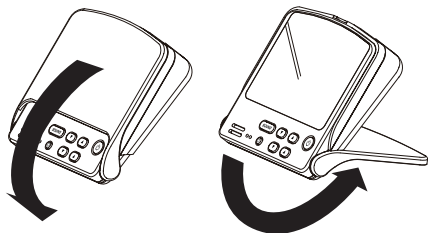
El Transmisor puede colocarse en instrumentos musicales de viento, metal o cuerda. Con algunos instrumentos musicales, como un saxofón, puede colocar el Transmisor en una correa o en alguna otra parte que vibre, en vez de colocarlo directamente en el propio instrumento. Consulte los ejemplos de colocación mostrados en las figuras de la derecha.

- ⚠ Si utiliza un clip para colocar el Transmisor en el instrumento musical, manéjelo con cuidado. Si coloca el Transmisor en el instrumento musical durante un largo periodo de tiempo puede dejar marcas en el instrumento.
- ⚠ Si aplica una fuerza excesiva al Transmisor o al clip puede causar daños.

Ejemplos de colocación del Transmisor



Utilizar el soporte del Afinador



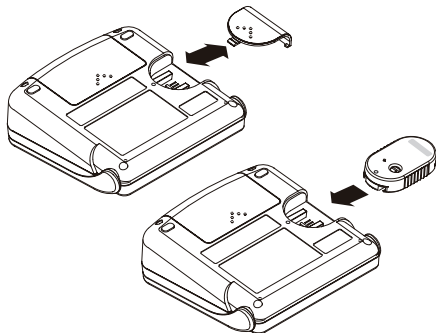
Ajustar la ID después de volver a colocar el Transmisor

El Afinador y el Transmisor comparten los datos de ajuste de la ID. Esto se realiza para evitar la mezcla de señales durante la comunicación inalámbrica.

Se ha programado una ID en el Afinador y en el Transmisor que se entrega con este paquete Wi-Tune antes de salir de fábrica.

Si utiliza un Transmisor diferente (no incluido en este paquete), debe ajustar la ID en dicho Transmisor.

1. **Presione levemente y deslice la tapa del lado derecho del Afinador para retirarla.**
2. **Deslice el Transmisor en el Afinador para que el Transmisor quede bloqueado en el conector del Afinador.**
3. **Active el Transmisor y el Afinador.**





note Puede hacerlo mientras activa cada una de las unidades.

Una vez completada la transmisión de los datos de ID del Transmisor al Afinador, el indicador ID se iluminará en la LCD.

4. Una vez transmitidos los datos de ID, retire el Transmisor del Afinador.

Se apagará el indicador ID de la LCD.

 Si se utilizan varias unidades Wi-Tune en la misma posición, es posible que el indicador de afinación no responda al instrumento adecuado, o que se visualice un nombre de nota incorrecto. En tales casos, reajustando la ID se restablecerá la comunicación entre el Transmisor y el Afinador.

 Si no se recibe sonido durante 20 minutos con el Transmisor activado, o si el Transmisor y el Afinador no pueden comunicarse entre sí durante dos minutos, el equipo se desactivará automáticamente.

Activar y desactivar el equipo

1. Pulse el botón [POWER] del Afinador y del Transmisor para activar y desactivar el equipo.

Si no se recibe sonido durante 20 minutos con el Afinador activado, el equipo se desactivará automáticamente.

Retroiluminación

1. Pulse el botón [BACK LIGHT]. Se activará la retroiluminación de la LCD.


Si pulsa el botón [BACK LIGHT] se activará y desactivará la retroiluminación de la LCD.

Afinación inalámbrica

Una vez activados los Afinador y Transmisor con lo cual la comunicación ya resulta posible, se desactivará el micrófono integrado del Afinador y podrá utilizar la función inalámbrica. Ahora aparecerá el indicador inalámbrico en la LCD.

Afinar usando el micrófono inalámbrico

Puede utilizar el micrófono integrado en el Afinador simplemente activando el Afinador. Ahora se activará el indicador MIC en la LCD.

 Una vez activada la afinación inalámbrica, el Afinador mantendrá el modo de afinación inalámbrica aunque no pueda recibir señales debido a que se ha desactivado el Transmisor, a que se han agotado las baterías del Transmisor o a que el Transmisor se ha movido fuera de la cobertura de comunicación. Si desea seleccionar el modo de afinación de micrófono del Afinador, desactive tanto el Afinador como el Transmisor y luego active sólo el Afinador.

Modo de indicador

El modo medidor le permite afinar el instrumento observando el medidor y utilizando el Transmisor o el micrófono integrado del

Afinador. En este modo, puede llevar a cabo la afinación inalámbrica o la afinación con el micrófono integrado del Afinador.


1. Pulse el botón [CALIB UP] o el botón [CALIB DOWN] para seleccionar la afinación de referencia.


Puede ajustar la afinación de referencia en incrementos de 1Hz dentro del intervalo de 410Hz a 480Hz.

2. Play a single note on your musical instrument to tune.

El Afinador muestra el nombre de la nota más cercana a la afinación reconocida. Afine el instrumento para que el Afinador muestre el nombre de la nota deseada.

3. Vuelva a tocar una sola nota y afine el instrumento para que se active la guía de afinación (el centro del indicador).

 Si utiliza el micrófono integrado del Afinador para la afinación, procure evitar que el micrófono capture sonidos de fuentes distintas al propio instrumento.

 Incluso dentro del intervalo medible, es posible que no puedan medirse las notas

con muchos armónicos o una caída rápida (por ejemplo y especialmente, las notas muy graves o agudas del piano).

note Para aumentar la afinación una tercera mayor pura o una tercera menor pura, ajuste la afinación de forma que la aguja del indicador señale la marca de tercera mayor o menor pura, respectivamente. Por ejemplo, si desea aumentar la nota A (0 centésimas) en una tercera mayor pura, afine primero el instrumento de forma que la pantalla indique el nombre de nota C#, y luego afine con más precisión el instrumento de forma que la aguja del indicador señale la flecha hacia abajo ▼ (-13,7 centésimas) en el lado izquierdo del indicador. Si desea aumentar la nota A (0 centésimas) en una tercera menor pura, afine el instrumento de forma que la pantalla indique el nombre de nota C, y luego afine con más precisión el instrumento de forma que la aguja del indicador señale la flecha hacia arriba ▼ (+15,6 centésimas) en el lado derecho del indicador.

Modo de emisión de sonido

En este modo, puede afinar el instrumento tomando como referencia el sonido del oscilador en la afinación de referencia (enviado desde el altavoz del Afinador).

- 1. Pulse el botón [SOUND] para activar el modo de emisión de sonido.**
- 2. Pulse el botón [SOUND UP] o [SOUND DOWN] para seleccionar el nombre de la nota respecto a la cual desea afinar.**

Puede seleccionar una afinación en el intervalo de C4 (261,63Hz) a C5 (523,25Hz).
12NOTE: C4 > C#4 > D4 > D#4 > E4 > F4 > F#4 > G4 > G#4 > A4 > A#4 > B4 > C5
- 3. Afine el instrumento consultando el sonido del oscilador en la salida de afinación de referencia desde el Afinador.**
- 4. Para salir del modo de emisión de sonido, pulse el botón [SOUND].**

Especificaciones

Temperatura de funcionamiento:	0 – +40°C (non-condensador)
Temperamento:	Temperamento igual
Intervalo de medición:	A0 (27,50Hz) – C8 (4186,01Hz)
Afinación de referencia:	C4 (261,63Hz) – C5 (523,25Hz); Una octava
Modo de afinación:	Modo de indicador (AUTO), Modo de emisión de sonido (MANUAL)
Intervalo de calibración:	A4= 410 – 480Hz (incrementos de 1Hz)
Precisión de medición:	Dentro de ± 1 centésima
Precisión del sonido:	Dentro de $\pm 1,5$ centésimas
Inalámbrico:	Banda de 2,4GHz
Altavoz:	Altavoz de dinámicas ($\varnothing 23$ mm)
Alimentación:	Afinador; Baterías AA (x 2)= 3V (recomendado baterías alcalinas) Transmisor; CR2032 baterías fabricadas por Panasonic
Dimensiones(Anch. x Prof. x Alt.):	Afinador; 100 x 99 x 34mm Transmisor; 27 x 45 x 10mm Clip normal; 56 x 22 x 47mm Clip pequeño; 44 x 17 x 24mm
Peso:	Afinador; 204g (incluyendo las baterías) Transmisor; 11g (incluyendo las baterías) Clip normal; 11g Clip pequeño; 5g
Vida de la batería:	Afinador; 45horas aproximadamente (durante un funcionamiento inalámbrico de afinación con retroiluminación activada) Transmisor; 25horas aproximadamente (funcionamiento de entrada A4 continuo)

Accesorios: Manual del Usuario; baterías AA (x2) y batería de litio CR2032 (3V) (x1) para comprobar el funcionamiento; Clip normal, Clip pequeño para adjuntar al instrumento musical.

* Las especificaciones y el aspecto están sujetas a cambios sin previo aviso por mejora.

サービスについて

1. 保証期間

本機の保証期間は、ご購入（保証書による）より満1ヶ年（現金・クレジット・月賦等による区別はございません）と致します。

2. 保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡頂きますと、技術者が修理、調整致します。この際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合にはサービス料金を頂く場合もあります。

3. アフターサービス

満1ヶ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。ご不明の点などございましたら、お買い上げ店あるいは下記のヤマハミュージックトレーディング株式会社までお問い合わせください。

年月日	修理内容	担当	印

この度はヤマハ・ワイヤレス・チューナーTDW-120をお買上げ戴きましてありがとうございました。本書は、本書記載内容で修理を行なう事をお約束するものです。

お買上げの日から保証期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上お買上げの販売店に修理をご依頼ください。(詳細は下項をご覧ください)

無償修理規定

1. 正常な使用状態(取扱説明書、本体貼り付けラベルなどの注意書に従った使用状態)で故障した場合には、お買上げの販売店が無料修理を致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合は、お買上げの販売店に商品と本書をご持参のうえご依頼ください。
3. ご贈答品、ご転居後の修理についてお買上げ販売店にご依頼できない場合には、お近くのヤマハ特約楽器店、またはヤマハミュージックトレーディング株式会社にお問い合わせください。
4. 保証期間内でも次の場合は有料となります。
 - (1) 本書のご提示がない場合。
 - (2) 本書にお買上げの年月日、お買上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。
 - (3) 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - (4) お買上げ後の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - (5) 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧などによる故障及び損傷。
 - (6) 消耗部品の交換。
 - (7) お客様のご要望により出張修理を行なう場合の出張料金。
5. この保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
6. この保証書は再発行致しませんので大切に保管してください。
※ この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買上げの販売店、ヤマハミュージックトレーディング株式会社にお問い合わせください。

保証書

持込修理

品名 / 品番	クロマチックチューナー / TDW-120		
保証期間	本体お買い上げの日から1ヶ年		
※購入年月日	年	月	日
お客様様	お住所	〒	
	お名前	様	
	電話		
※販売店	店名	印	
	お住所	〒	
	電話		

ご販売店様へ ※印欄は必ずご記入してお渡してください。

ヤマハミュージックトレーディング株式会社

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-28-5 ヒューリック蛸殻町ビル 7F
TEL (03) 5641-1051

※住所及び電話番号は変更になる場合があります。